

急がれる人員強化 と実態把握

ヒグマ対策専門員配置 個体数や生息環境の調査実施を

日本共産党札幌市議団

札幌市のヒグマ出没件数は2025年11月で約360件と、近年最多だった23年度の1.5倍に。駆除数も直近5年分の2倍超と、ヒグマと人との距離が近くなり摩擦が引き起るなか、日本共産党は抜本的、長期的な対策の強化にむけて、専門人材の配置や生息環境調査などを求めています。

専門性持つ人材、系統的配置を 第4回定例会 代表質問 佐藤綾市議

ヒグマ対策は、出没対応とともに長期的、抜本的な対応が求められることから、知識や経験の継承できる専門集団が欠かせないと、「専門性をもつ人材やガバメントハンターを系統的に育成・配置していく必要がある」と指摘。秋元克広市長は、「市職員の体制強化や猟友会と協力してハンターの人材育成をおこなうことにより、ヒグマの出没増加にも対応できる体制作り」を検討すると答弁しました。

また、市街地と近接する森林地域の、ヒグマ個体数の正確な把握を求めました。



施策を統括する司令塔、専門職が必要 12月に研究者招きヒグマ学習会

ヒグマ研究者としてテレビ等でも解説されている講師の間野勉氏（ヒグマの会副会長）は、自治体間の連携と情報共有の大切さを語り、専門職員の配置や、対策の司令塔など体制強化が重要と講演。ヒグマの生態など多岐に渡る質問に答えていただきました。

2026年度予算編成に当たり6項目のヒグマ対策を市長に求めました（11月20日）

- ・札幌市環境局熊対策職員の増員、「ヒグマ対策専門員」（仮称）やガバメントハンターを市職員として育成・配置
- ・緩衝帯での追い払いを重視し、ベア・ドッグの導入検討
- ・道と連携し科学的な生息地域毎の正確な個体数の把握
- ・ヒグマを誘引させない環境づくり、ヒグマとの接触を避ける行動や心がけ、「クマ撃退スプレー」の使用方法など対処方法と安全対策の周知
- ・民間施設等が、ヒグマ侵入を防ぐ電気柵や刈り払い実施する際の支援策
- ・スクールバス運行など通学路や学校敷地内の安全確保のために支援策



市長（左）に要望書を提出